

Iwatani

**2020年3月期
決算説明会**

2020年5月22日

岩谷産業株式会社

- 2020年3月期 決算概況
- 2021年3月期 通期業績予想
- PLAN20の進捗について
- 事業トピックについて

2020年3月期 決算概況

減収の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2020年 3月期 実績	2019年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2020年 3月期 通期予想
売上高	6,867	7,150	△283	7,473
売上総利益	1,762	1,706	+56	-
営業利益	287	264	+22	305
営業外損益	35	34	+0	25
経常利益	322	299	+23	330
親会社株主に 帰属する 当期純利益	209	192	+17	205

売上高増減

19年3月期
通期実績

20年3月期
通期実績

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

売上高は、LPガス輸入価格や資源価格が低位で推移したことで、前年同期に比べ4.0%減収の6,867億円となりました。

総合エネルギー事業での減収は226億円となっておりますが、この内、121億円は、効率的で安定的なLPガス調達を目的として行っている、海外でのバーター取引の単価下落および数量減少によるものです。

売上総利益は、LPガスの市況要因が前年と比べて改善したことや、産業ガス・機械事業で増益となったことで、前期比56億円増益の1,762億円となりました。

増益の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2020年 3月期 実績	2019年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2020年 3月期 通期予想
売上高	6,867	7,150	△283	7,473
売上総利益	1,762	1,706	+56	-
営業利益	287	264	+22	305
営業外損益	35	34	+0	25
経常利益	322	299	+23	330
親会社株主に 帰属する 当期純利益	209	192	+17	205

営業利益増減

2019年3月期
通期実績: 264

2020年3月期
通期実績: 287 (+8.6%)

増減要因:

- 総合エネルギー: +28
- 産業ガス・機械: +7
- マテリアル: +3
- 自然産業: △12
- その他: △5

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

4

営業利益ですが、人件費や減価償却費が増加し、販管費が前期に比べ33億円増加したことで、前期比22億円増益の287億円となりました。営業外損益は、受取配当金の増加や支払利息の減少で、前期比45百万円の収益改善となり、経常利益は、前期比23億円増益の322億円、当期純利益は、前期比17億円増益の209億円となりました。

この結果、売上総利益、営業利益、経常利益、当期純利益については、過去最高益となりました。

L Pガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ） **Iwatani**

- 前提** ①卸売価格は L Pガス輸入価格に連動 ②輸入～販売の期間は約3ヶ月

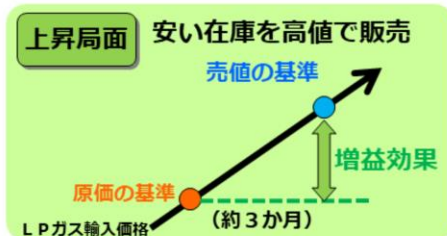
卸売価格 \propto L Pガス輸入価格
(中東玉 (CP) と米国玉 (MB) で構成)



L Pガス輸入
価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（L Pガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

5

続いてセグメント別の状況について説明させていただきますが、まず、LPガスの輸入価格の変動が業績に与える影響について、簡単に説明いたします。

当社はLPガスを中東と米国から輸入しており、中東からの輸入価格を「コントラクト プライス」、略してCP(シーピー)と呼び、米国からの輸入価格を「mont belビュー」、略してMB(エムビー)と呼んでおり、これらは毎月変動いたします。

当社は、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格をCPと連動するよう取り決めていましたが、2017年10月からCPとMBに連動する価格体系に変更しています。

一方、当社では在庫評価について「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで時間がかかるため、販売する際には、約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

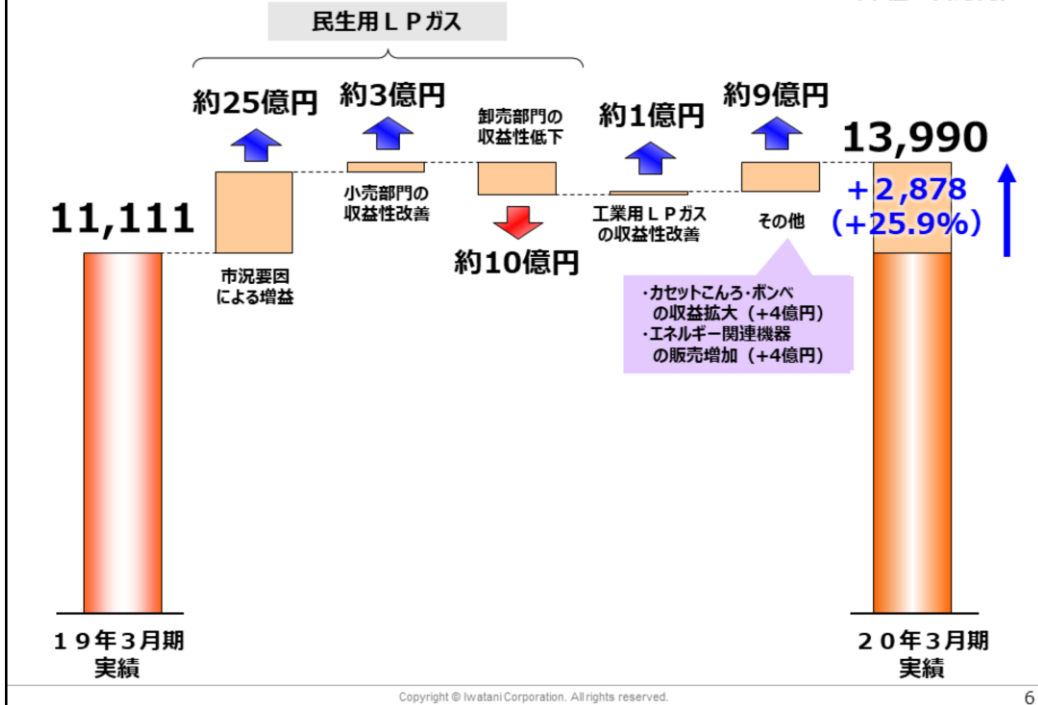
この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を安く売ることとなります。

これらの影響を「市況要因」と呼んでおります。

なお、CPの推移については、決算短信の28ページに記載しております。

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)

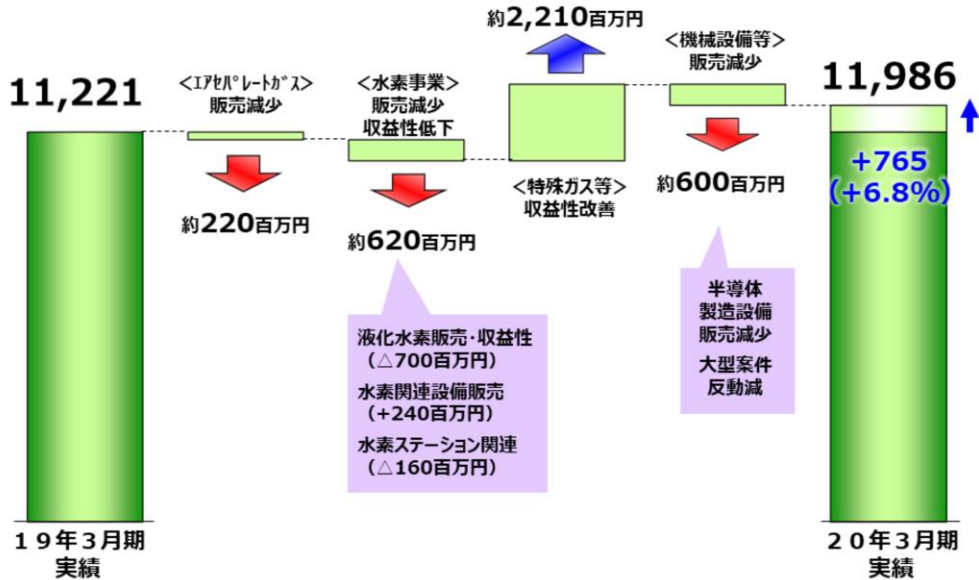


総合エネルギー事業は、LPガスの市況要因が前期比で25億円改善いたしました。小売部門については、LPガス輸入価格が低位で推移したことで、収益性が改善しましたが、卸売部門についてはフレートコストの上昇などにより減益となりました。また、「カセットこんろ・ボンベ」やガス保安機器、およびLPガス非常用発電機の販売が好調に推移し、「その他」で9億円の増益となっております。

この結果、当事業分野の売上高は6.7%減収の3,135億円、営業利益は25.9%増益の139億円となりました。なお、3月末時点のLPガスの直売顧客数は100万戸となり、PLAN20の計画数値を1年前倒しで達成しております。

産業ガス・機械事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

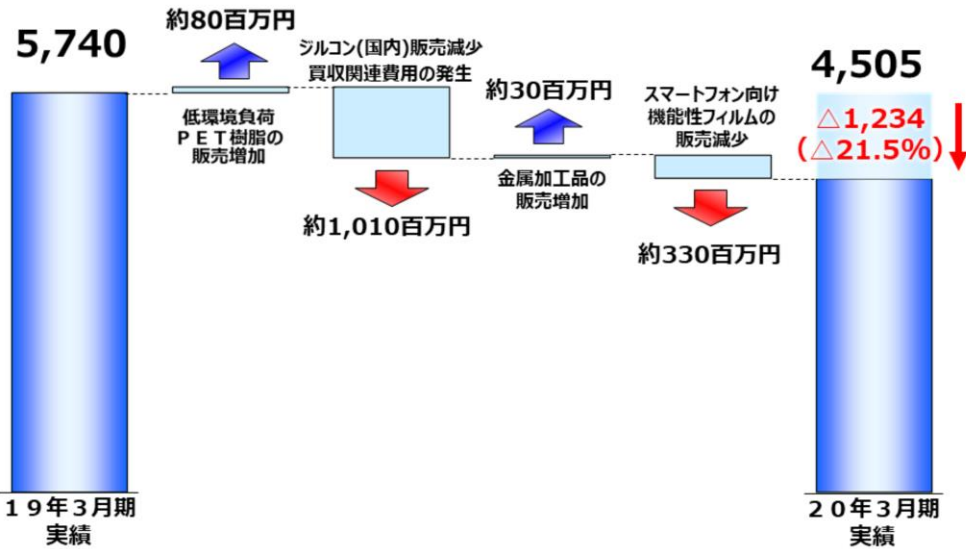
産業ガス・機械事業ですが、エアセパレートガスについては、電子部品業界および光ファイバー業界向けの販売数量が減少し、減益となりました。また、水素事業についても、水素関連設備の販売は増加しましたが、液化水素の販売数量が減少し、減益となりました。特殊ガス等については、ヘリウムの世界的な需給ひっ迫が継続し、市況が上昇したことに加え、炭酸ガス、フロン、アンモニアの収益性が改善しました。

機械設備については、半導体製造設備の販売減少や、前期にあった大型案件の反動減などにより減益となりました。

この結果、当事業分野の売上高は1.3%増収の1,905億円、営業利益は6.8%増益の119億円となりました。

マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

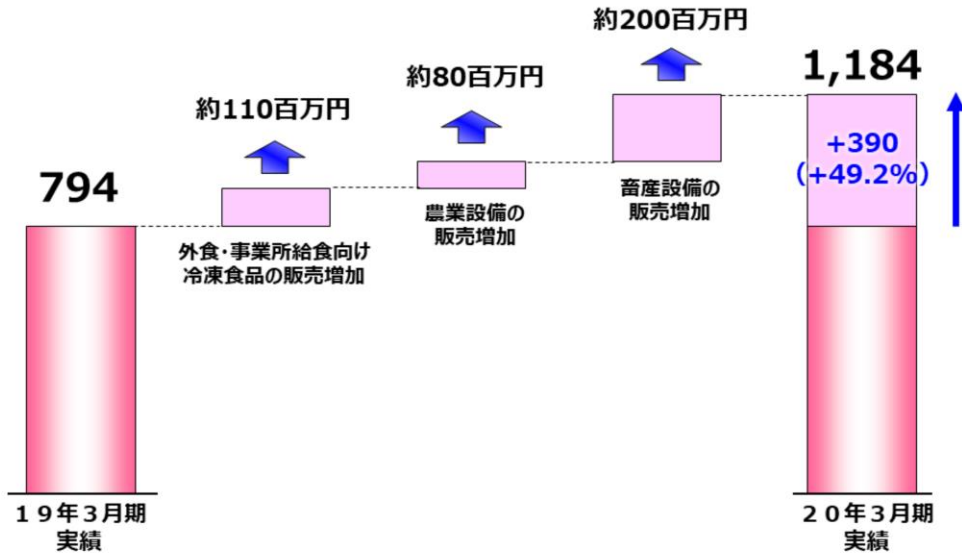
8

マテリアル事業は、
 大手飲料メーカー向けを中心に低環境負荷PET樹脂の販売が増加しました。
 一方、国内でのシリコンの販売減少に加え、豪州での買収関連費用が
 発生しました。
 また、エアコン向けの金属加工品の販売は増加しましたが、スマートフォン向けの
 機能性フィルムの販売が減少しました。

この結果、当事業分野の売上高は6.0%減収の1,495億円、
 営業利益は21.5%減益の45億円となりました。

自然産業事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

9

自然産業事業は、
外食および事業所給食向け冷凍食品の販売が伸長しました。
また、農業設備および畜産設備の販売が好調に推移しました。

この結果、当事業分野の売上高は3.3%増収の273億円、
営業利益は49.2%増益の11億円となりました。

貸借対照表（連結）

Iwatani
(単位：億円)

	2020年 3月末	2019年 3月末	前年差 増減額	主な増減理由・備考
流動資産	2,037	1,978	+59	現預金および棚卸資産の増加
有形固定資産	1,717	1,644	+73	水素ステーション建設やオンサイト設備などへの投資
無形固定資産	167	177	△9	
投資その他の資産	773	775	△2	
固定資産	2,659	2,597	+61	
総資産	4,697	4,576	+121	
流動負債	1,911	1,727	+184	仕入債務は減少するも、1年内償還予定の社債の増加
固定負債	874	1,108	△234	社債の減少
負債	2,785	2,836	△50	有利子負債 1,265億円 有利子負債依存度 26.9%
自己資本	1,822	1,654	+168	自己資本比率 38.8%
非支配株主持分	88	85	+3	
純資産	1,911	1,739	+171	
負債・純資産	4,697	4,576	+121	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

主な財政状態についてご説明致します。

3月末の総資産は前期比121億円増加の4,697億円、自己資本は前期比168億円増加の1,822億円となり、その結果自己資本比率は2.7ポイント改善し、38.8%となりました。

一方、有利子負債については、借入金の増加などにより、前期比2億円増加の1,265億円となり、有利子負債依存度は26.9%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

(単位：億円)

	2020年3月期 実績	2019年3月期 実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	402	391	+11
投資キャッシュ・フロー	△308	△236	△71
フリー・キャッシュ・フロー	93	154	△60
財務キャッシュ・フロー	△35	△136	+100
換算差額等 ※1	△1	△0	△1
現預金等の増減額 ※2	56	17	+38
現預金等の期首残高	195	177	+17
現預金等の期末残高	251	195	+56

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております。

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

キャッシュ・フローについてご説明致します。

営業キャッシュ・フローは、当期純利益や減価償却費の増加などにより前期比で11億円増加し、402億円の収入、

投資キャッシュ・フローは、LPガス、水素ステーション関連の投資、豪州や米国の事業買収などがあり、308億円の支出となり、結果、フリー・キャッシュ・フローは93億円となりました。

また、財務キャッシュ・フローについては、借入金の返済などにより35億円の支出となりました。

2021年3月期 通期業績予想

2021年3月期 通期業績予想

Iwatani
(単位：億円)

	2021年3月期 業績予想	2020年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	6,775	6,867	△92	△1.4%
総合エネルギー事業	3,013	3,135	△122	△3.9%
産業ガス・機械事業	1,897	1,905	△8	△0.4%
マテリアル事業	1,492	1,495	△3	△0.2%
自然産業事業	318	273	+44	+16.4%
その他	55	58	△3	△6.2%
営業利益	247	287	△40	△14.0%
総合エネルギー事業	140	139	+0	+0.1%
産業ガス・機械事業	84	119	△35	△29.9%
マテリアル事業	42	45	△3	△6.8%
自然産業事業	12	11	+0	+1.4%
その他・調整額	△31	△29	△1	-
経常利益	276	322	△46	△14.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	173	209	△36	△17.6%
想定レート	(上期) 為替 110円/\$	LPガス輸入価格 300\$/ト>		
	(下期) 為替 110円/\$	LPガス輸入価格 450\$/ト>		

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

2021年3月期の連結業績予想は、

売上高は、前期比 1.4%減収の6,775億円
 営業利益は、前期比 14.0%減益の 247億円
 経常利益は、前期比 14.5%減益の 276億円
 当期純利益は、前期比 17.6%減益の 173億円
 を予定しています。

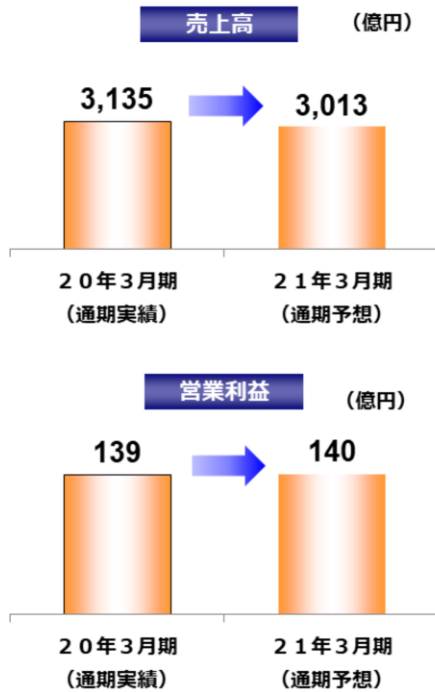
本見通しは、新型コロナウイルスの影響により、LPガス輸入価格の下落による減収や産業ガス・機械事業、マテリアル事業における販売減が上期を通じて続くと想定しています。

なお、業績予想の前提となる為替の想定は、1ドル110円としており、LPガス輸入価格(CP)の想定は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、上期については1トンあたり300ドル、下期については450ドルとしております。

続きまして、各セグメントの見通しについてご説明申し上げます。

総合エネルギー事業の見通し

Iwatani



新型コロナウイルスの影響について

- ・LPガス輸入価格の下落による売上減少および業務用、工業用LPガスの販売減少

通期業績予想の達成に向けて

- ・M&AによるLPガス直売顧客数の拡大
- ・エネルギー関連機器の拡販
- ・国内外でのカートリッジガス事業の拡大

業績が変動するリスク要因

- ◇ LPガス輸入価格、為替の動向
- ◇ 気温変動による販売数量への影響

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

14

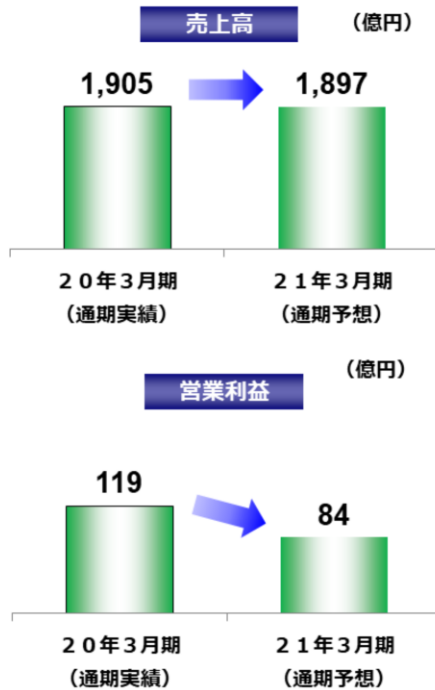
総合エネルギー事業ですが、売上高は、3,013億円で3.9%の減収、営業利益は、140億円でほぼ横ばいと予想しております。

新型コロナウイルスの影響によるLPガス輸入価格の下落に伴い、減収を見込んでおりますが、M&A推進により直売顧客数の拡大を図り、LPガス販売数量の増加に努めます。

また、LPガスや都市ガスの顧客に対して、BCP需要などを取り込んだエネルギー関連機器の拡販を行うとともに、インターネットなどの販売チャネルも活用したBtoC商品の販売を強化します。カートリッジガス事業においては国内外での事業拡大を図ります。

産業ガス・機械事業の見通し

Iwatani



新型コロナウイルスの影響について

- ・国内外の景気低迷による、各種産業ガス、機械の販売減少

通期業績予想の達成に向けて

- ・成長分野へのエアガスの拡販
- ・液化水素の新規ユーザー獲得
- ・ヘリウムの安定供給
- ・自動化・省力化に向けた設備需要の取込み

業績が変動するリスク要因

- ◇ 電力料金上昇による製造コストへの影響
- ◇ 為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

産業ガス・機械事業ですが、売上高は、1,897億円でほぼ横ばい、営業利益は、84億円で29.9%の減益を予想しております。

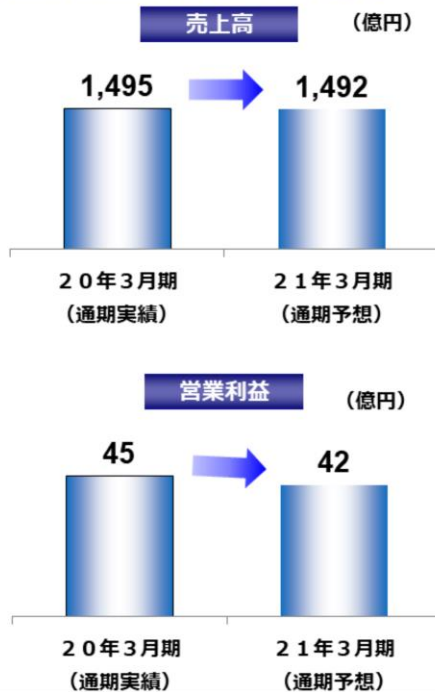
新型コロナウイルスの影響により各種産業ガスや機械の販売減少を見込んでおりますが、次世代通信関連や再生医療分野等の成長分野を中心に産業ガスの拡販を進めてまいります。また、液化水素については引き続き新規ユーザーの獲得に努めてまいります。

ヘリウムについては、新ソースの稼働はまだ先と見られており、世界的な需給のひっ迫は今後も継続する見通しです。当社としては、高効率のヘリウム回収設備を導入したヘリウムセンターや自社所有のコンテナを有効活用し、効率的かつ安定的な供給に努めてまいります。

機械設備については、自動化や省力化に向けたロボットや自動化設備、および電子部品や半導体業界における5G関連設備といった、需要が拡大すると見込まれる分野を中心に拡販を進めます。引き続き産業ガス事業との相乗効果を発揮し、事業の拡大を図ってまいります。

マテリアル事業の見通し

Iwatani



新型コロナウイルスの影響について

- ・国内外の景気低迷による、主力商品の販売減少

通期業績予想の達成に向けて

- ・低環境負荷PET樹脂の拡販
- ・バイオマス事業の拡大
- ・二次電池材料の拡販

業績が変動するリスク要因

- ◇ 資源市況の変動
- ◇ 為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

マテリアル事業については、
売上高が1,492億円ではほぼ横ばい、
営業利益は42億円で6%の減益を予想しております。

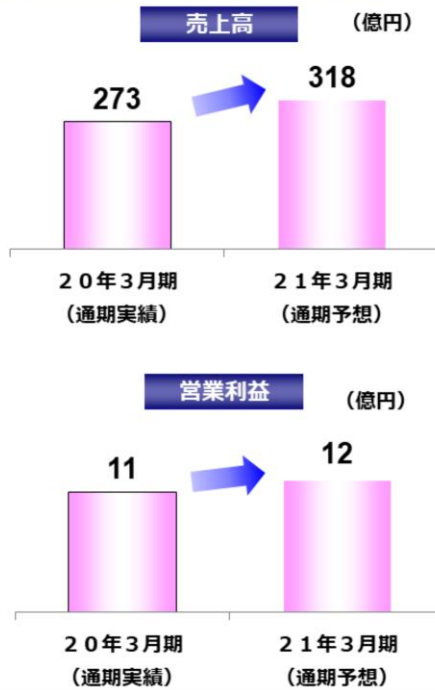
低環境負荷PET樹脂については、飲料用に加えて新たにフィルム用の納入を開始するなど好調に推移する見通しです。
また、バイオマス事業についても、長期契約が開始することで、販売数量の増加が見込まれます。
SDGsへの意識の高まりに伴う、環境分野の市場拡大を見据え、環境商品の拡販を進めるとともに、新商品の開発に努めます。

二次電池材料については、主力商品であるコバルトの価格が下落しましたが、次世代自動車向けの需要が増加する見通しで、引き続き拡販に取り組んでまいります。

また、海外では新市場への参入や製造能力の増強を進め、メーカー機能の拡充に取り組めます。
加えて、機能性アルミ箔やナノマテリアルなどの新たな商材にも取り組み、事業規模の拡大を図ってまいります。

自然産業事業の見通し

Iwatani



新型コロナウイルスの影響について

・外食・給食向けの冷凍食品の販売減少

通期業績予想の達成に向けて

- ・外食・中食業界向け冷凍食品の拡販
- ・種豚の拡販
- ・農業・畜産設備の拡販

業績が変動するリスク要因

- ◇為替変動
- ◇原材料価格変動
- ◇天候不順

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

17

自然産業事業については、
売上高は318億円で16.4%の増収、
営業利益は12億円でほぼ横ばいと予想しております。

国内外で外食や惣菜・弁当などの中食業界向けに冷凍野菜の新規開拓に努めるとともに、農業生産事業への参入や省人化・自動化機器の開発・販売、大手養豚事業会社向け畜産設備・種豚販売の強化を図ります。

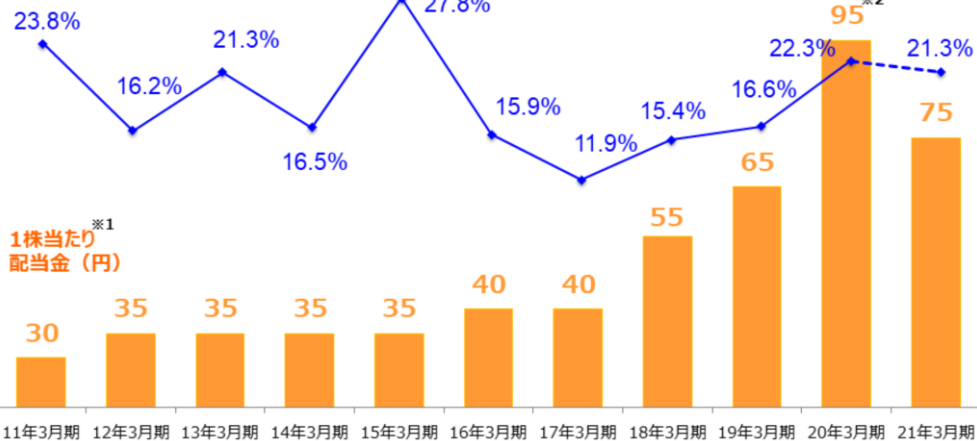
株主還元について（連結）

Iwatani

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施

連結配当性向 (%)



11年3月期 12年3月期 13年3月期 14年3月期 15年3月期 16年3月期 17年3月期 18年3月期 19年3月期 20年3月期 21年3月期

※1 2011年3月期～2017年3月期の配当については、2017年10月の株式併合（5株→1株）の影響を考慮した金額

※2 うち記念配当20円含む

(予定)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

2019年度の配当につきましては、65円から10円増配し、さらに創業90周年の記念配当20円を加えた95円を予定しております。これにより配当性向は連結で22.3%となります。

2020年度の配当は、10円の増配を維持した75円を予定しております。今後とも業績や経営環境を慎重に考慮しながら、適正な利益還元を実施していきたいと考えております。

PLAN20の進捗について

各指標順調に推移するも、先行きは不透明

【経営指標】

項目	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	PLAN20 目標値
経常利益	294億円	299億円	322億円	330億円
ROE (自己資本利益率)	12.2%	12.0%	12.1%	10.0% 以上
ネットD/Eレシオ	0.73倍	0.64倍	0.55倍	0.7倍

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

PLAN20での経営数値目標については、「経常利益330億円」、「ROE10.0%以上」、「ネットD/Eレシオ0.7倍」を掲げており、2019年度の実績については、経常利益については322億円となり、最終年度の目標値まであと1歩のところまでできております。

ROEは12.1%、ネットD/Eレシオは0.55倍で、どちらも達成しております。

L P ガス直売顧客数は1年前倒して達成

【重要事業指標】

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	PLAN20 目標値
L P ガス直売顧客数	90万戸	99万戸	100万戸	100万戸
国内外 カセットこんろ・ボンベ 販売数量	こんろ 3,333千台 ボンベ 103百万本	こんろ 3,869千台 ボンベ 121百万本	こんろ 3,796千台 ボンベ 132百万本	こんろ 4,400千台 ボンベ 137百万本
エアセパレートガス 販売数量	15億m3	16億m3	15億m3	17億m3
液化水素販売数量	59百万m3	70百万m3	59百万m3	90百万m3

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

21

当社はコア事業をガス&エネルギーとしており、
 主要な事業の成長を測る指標として、「LPガス直売顧客数」、
 「国内外カセットこんろ・ボンベ販売数量」、
 「エアセパレートガス販売数量」、「液化水素販売数量」の
 4指標を重要事業指標とし、達成に向けて取り組んでおります。

LPガスの直売顧客数は100万戸となり、PLAN20最終年度の目標を一年前倒して達成することができました。

国内外カセットこんろの販売数量は379万台、ボンベは1億32百万本となり、
 国内でのシェアはそれぞれ80%、60%となりました。
 なお、PLAN20の販売目標は達成できる見込みです。

エアセパレートガスは、電子部品業界や光ファイバー業界の落ち込みによる影響
 で、15.3億m3に減少しました。

液化水素は、新規顧客獲得を進めましたが、光ファイバー業界や半導体業界など
 の稼働低下により、59百万m3に減少しました。

先程も申し上げましたが、産業ガス事業では新型コロナウイルスの影響が大きく、
 厳しい状況ではありますが、成長分野の需要を取り込むなど引き続き目標達成に
 向け、取り組んでまいります。

事業トピックについて

水素ステーションの普及に向けた取り組み推進

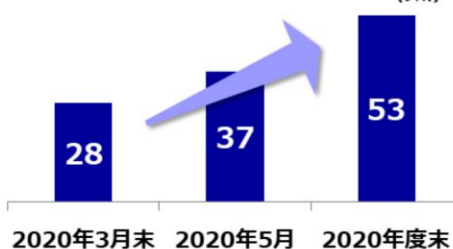


イワタニ水素ステーション 羽田空港の完成予想図



イワタニ水素ステーション 東京葛西

当社の水素ステーション (ヶ所)



2020年3月末 2020年5月 2020年度末

水素エネルギー社会に向けた取り組みについてですが、
当社では現在、国内で37カ所の水素ステーションを運営しており、
7月には38カ所目となる「イワタニ水素ステーション羽田空港」を
開所する予定です。
2020年度中には、累計で53カ所の水素ステーションを建設する予定で、
引き続き整備を進めてまいります。

CO₂フリー水素への取り組み①



液化水素運搬船「すいそ ふうんていあ」の進水式



液化水素荷揚げターミナルの完成予想図

豪州褐炭プロジェクト



CO₂フリー水素への取り組みについてですが、水素がエネルギーとして一般的に利用される「水素エネルギー社会の実現」を目指し、日本、オーストラリア間でのCO₂フリー水素サプライチェーンの構築と商用化に向けた実証試験を進めています。

昨年12月に世界初の液化水素運搬船の進水式が行われ、当社が担当する神戸の出荷基地の建設も順調に進んでおります。2020年度中には液化水素運搬船による日本、オーストラリア間での海上輸送が実施される予定です。

CO₂フリー水素への取り組み②



完成した福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

25

さらに、2018年から福島県浪江町で建設を進めてきた、再生可能エネルギーを利用した世界最大級の水素製造装置を備えた「福島水素エネルギー研究フィールド」が2月末に完成し、稼働を開始しました。本施設にて製造された水素は、東京オリンピック・パラリンピックでも活用される見込みです。

米国：水素事業の拡大

産業ガスディーラーの買収

中国：各種産業ガスの製造能力を増強（嘉興）

エアセパレートガスの製造能力を2.5倍

水素ガス製造設備を新設



Iwatani West Sacramento H2 Fueling



嘉興岩谷気体会社

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

26

産業ガス事業の海外展開について説明いたします。

米国カリフォルニア州では、水素ステーションを4カ所運営しております。大型物流トラックのFC化や、ロサンゼルス港での港湾車両のFC化が計画されており、水素需要拡大に応えるべく、今後さらにステーションの数を増やしてまいります。

また、水素ステーションの運営を足掛かりとして、北米におけるCO2フリー水素の製造・供給体制の構築も視野に入れ、事業拡大を図ってまいります。

米国では昨年、特殊ガスに特化した産業ガスディーラーのASG社を買収しました。まずは北米市場で特殊ガスの事業拡大に努めます。今後もさらなる産業ガスディーラーのM&A等を通じて、米国での産業ガス事業の拡大を図ってまいります。

中国の嘉興では、伸長する中国の国内需要を見据え、既存のエアセパレートガスの製造能力を2.5倍に増強いたします。また、水素製造設備の建設も進めており、中国でも水素のメーカーポジションとしての地位を確立します。

炭酸ガス、ヘリウムについても製造・販売を行っており、様々なガスの総合提案を行える体制を整え、中国事業の拡大を図ってまいります。

米国・中国に加えて東南アジアでも、既存の事業基盤を活かしながら、積極的に設備投資を実施し、事業の拡大を図ってまいります。

京丹後市と近未来技術の導入促進に係る協定締結



京丹後市との実証実験の概念図

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

27

イワタニゲートウェイ構想についてご説明いたします。

一般家庭に設置するガス漏れ警報器に通信機能を付加することで、様々な「モノ」をインターネットにつなぐ中継基地として機能する新技術を開発し、新たな事業モデルの創出に向け、実証実験を進めています。

具体的には、京都府でお客様に通信機能付きガス警報器を250台設置し、家庭内のガス・電気・水道の使用データを取得する実証実験を開始しました。また、京丹後市と協定を締結し、高齢者の見守りや健康管理を地域の公共サービスとして提供する準備を進めています。

新たなプラットフォームの構築の推進



AI・IoTを利用した事業基盤の構築（イメージ）

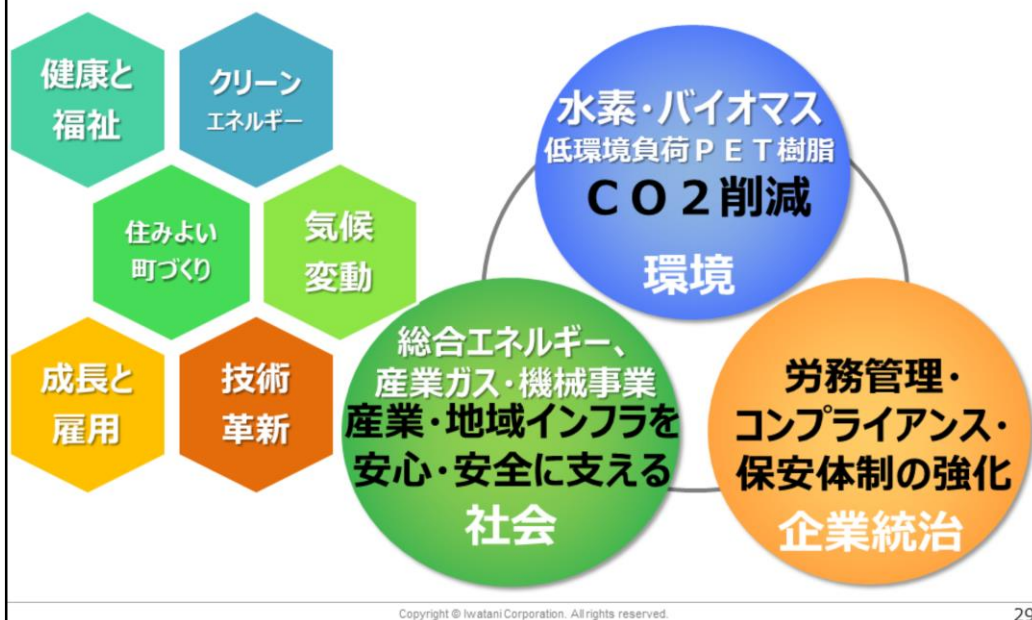
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

当社は、国内最大規模のLPガス供給インフラを有しており、全国のお客様に対して、緊急時には30分以内に現場に駆け付けられる体制を確立しています。

このようなリアルな事業基盤とIoTプラットフォームを融合させ、お客様の生活を様々な場面で支える新しいサービス・価値を提供する新たなプラットフォームを構築していきます。

また、今年にはガス漏れ警報器「みはり」の販売開始50周年となります。新商品の開発も含め、LPガス事業の新たな形を創り上げて行きたいと思っております。

SDGs（持続可能な開発目標に貢献する企業運営）



環境・社会・ガバナンスへの取り組みについてご説明します。

今後の事業環境を考えると、地球温暖化を含む環境問題、地域社会の高齢化、過疎化、人手不足など、解決すべき社会課題と当社の事業領域が重なる部分が多くあります。

岩谷の水素事業、バイオマス、低環境負荷PET事業などは環境に貢献する事業、LPガスや産業ガス事業は、暮らしや産業のインフラを支える事業です。こうした事業を推進することが、環境問題や社会課題の解決に資すると考えます。

また、新型コロナウイルスにより様々な影響が想定されますが、一方で、「新たな生活様式」として、防災意識や安定した生活インフラに対する意識の高まりなど、当社にとって新たな事業チャンスが広がっています。

全国に広がる「安心・安全を確保した」当社のインフラ事業をベースとし、その上に社会課題を解決し得る事業を創造することで、持続的な成長を図ります。

なお、先ほど申し上げましたが、今年度の業績予想は新型コロナウイルスの影響を鑑み減収減益を見込んでおりますが、このような中で、今月5日に当社は創業90周年を迎えました。

今一度、創業の精神に立ち返り、100年企業、さらにその先に向けて、「世の中に必要とされる企業」であり続けるために、新たな価値の創出に努め、社会に貢献してまいります。

引き続き、ご指導賜りますよう、よろしくお願いいたします。

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 I R担当

TEL : 06-7637-3470 FAX : 06-7637-3333 Webサイト : <http://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.